

総合学科における資質・能力を育成するための計画的な取組について ～総合学科推進部と教科（美術）の視点から～

いわき総合高等学校
教諭 伊藤 沙緒里

はじめに

総合学科では、普通教科並びに多くの専門教科が開設され、それぞれに設定した幅広い選択科目の中から、生徒自らが受講科目を選択し、個性を生かした主体的な学びができる。本校では、約 100 の選択科目を相互に関連する科目群として構成した「系列」が 6 つ設定されており、生徒はそこから系列及び科目を選択し、自分だけの時間割を作成している。生徒が自分自身の在り方や生き方を考え、課題を発見し、解決していく「社会の変化に対応できる生き抜く力」の育成を重視している。そのため、3 年間を通じた計画的な取組により、生徒の資質・能力の伸長が図られるのではないかと考えた。

今回、総合学科推進部の担当として、また、美術科担当としての実践的な取組を紹介する。

1.1 総合学科推進部としての本校における 3 年間の取組について

1 年次においては学校設定科目「産業社会と人間」（産社）を履修する。2 年次は「総合的な探究の時間」（総探）、3 年次では「課題研究」（課研）と称して実施している。本校では、総合学科教育を推進するために総合学科推進部を設置し、「産社」「総探」「課研」の 3 年間を通じた取組を各年次と協力して展開している（図 1）。

3 年間の「探究的な学び」を展開しながら、生徒の発表の機会を多く設け表現力を育成したり、コミュニケーション・ワークショップにより人間関係を築く力を醸成したりするなどの「コミュニケーション力の育成」をキャリア教育の一環として位置付けている。

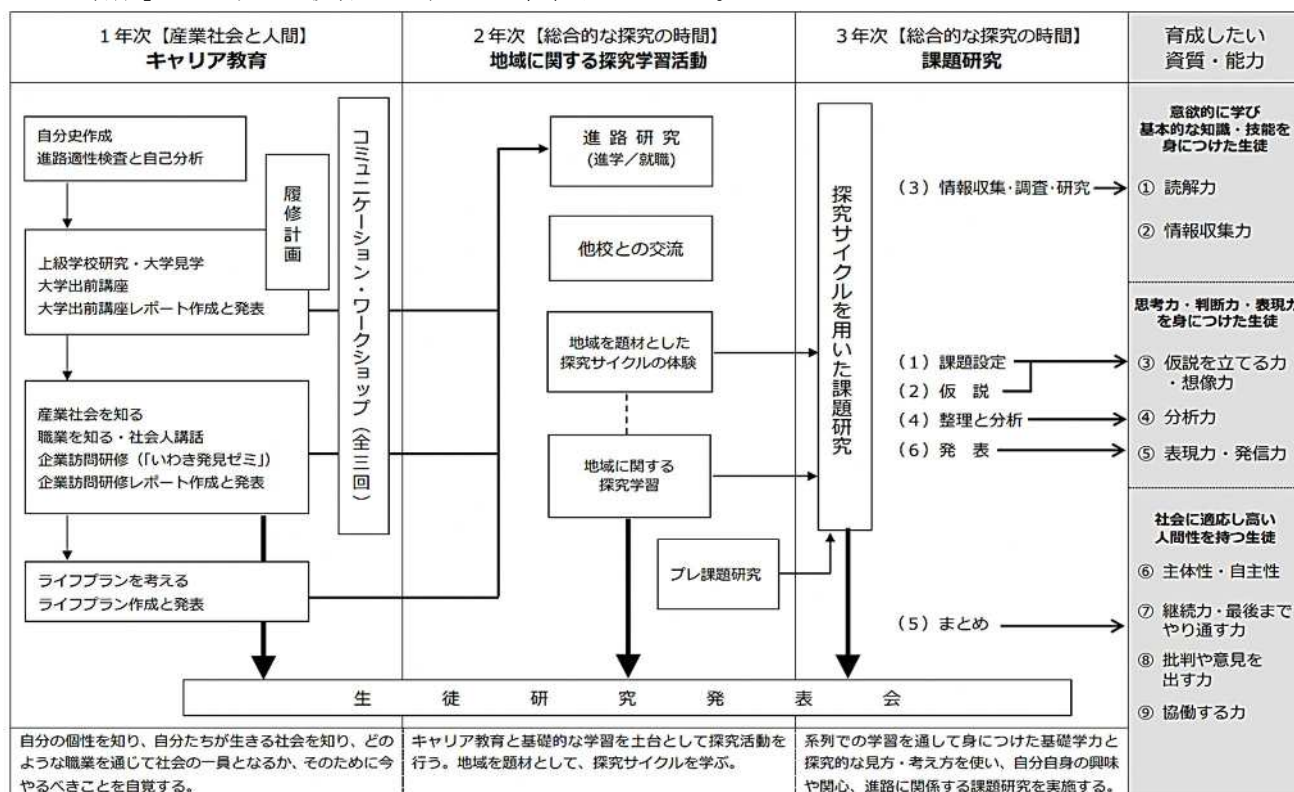


図 1 令和 5 年度「産社」「総探」「課研」の活動計画表

1.2 成果と今後の課題

(1) 実践の成果

① ルーブリック自己評価の分析から

本校では生徒へ育成したい 9 つの資質・能力をもとに「ルーブリック自己評価表」作成し、年間

3回、評価段階3段階のもと自己評価を行っている。

1年次は②情報収集力、④分析力、⑤表現力・発信力、⑥主体性・自主性、⑦継続力・最後までやり通す力の伸長の数値が大きい。新たな学習内容に積極的に取り組み、発表までできた達成感が自己評価につながっている生徒が多い。一方、①読解力の低さは評価する内容に漢字検定の基準があることが影響しているのではないかと。

3年次は①読解力、④分析力の伸長の数値が大きい。「課題設定→仮説→情報収集→まとめ発表」のプロセスを繰り返し行い、実施したことが自己評価につながっている生徒が多い。また、3年次になると①読解力が他の項目と同様の水準として評価されるようになり、各教科・科目の取り組みが成果として評価につながったのではないかと。

	1回（4月）		3回（3月）		1回目との差	
	1年	3年	1年	3年	1年	3年
育成したい9つの資質・能力						
① 読解力	1.5	1.9	2.0	2.4	0.4	0.5
② 情報収集力	1.9	2.1	2.5	2.6	0.6	0.4
③ 仮説を立てる力・想像力	1.8	2.0	2.3	2.4	0.5	0.4
④ 分析力	1.5	1.9	2.2	2.4	0.7	0.5
⑤ 表現力・発信力	1.6	2.0	2.3	2.3	0.6	0.4
⑥ 主体性・自主性	1.7	2.1	2.3	2.4	0.6	0.3
⑦ 継続力・最後までやり通す力	1.6	2.1	2.2	2.4	0.6	0.4
⑧ 批判や意見を出す力	1.9	2.1	2.3	2.4	0.4	0.2
⑨ 協働する力	1.9	2.3	2.4	2.5	0.5	0.2

② 進路状況から

国公立大学では、会津大学(コンピュータ理工学部)、秋田公立美術大学、私立大学では、医療創生大学(看護学科、作業・理学療法学科、薬学科)、茨城キリスト教大学などに合格している。系列の学習を生かして合格を勝ち取っている例が多い。

専門学校の割合がやや多いのは、高校での系列の学習を通して、より専門的な知識・技術を身につけたいと考え、進路選択していると分析している。

種別	進学内訳	人数	割合	人数	割合
進学	大学	50	28%	142	81%
	短期大学	13	7%		
	看護学校等	12	7%		
	その他専門学校	67	38%		
進学計					
就職				29	17%
その他				5	3%

図3 令和5年度進路状況

③ 学校評価から(一部抜粋)

「本校では、表現力・プレゼンテーション能力・課題解決能力等コミュニケーション力が身に付く指導がなされている。」について、「Aあてはまる」「Bどちらかといえばあてはまる」の合計が全体では94%に及び、本校の取組が資質・能力の育成につながっているとの認識が高いことがわかる。

「本校では、キャリア教育(「産社」や「総探」を含む)を通して、生徒自身の自己理解や職業理解を深めている。」について、「Aあてはまる」「Bどちらかといえばあてはまる」の合計が全体では96%に及び、本校の取組が生徒のキャリア形成につながっているとの認識が高いことがわかる。

評価項目	回答者	A	B	C	D
5. 本校では、表現力・プレゼンテーション能力・課題解決能力等、コミュニケーション力が身に付く指導がなされている。	生徒	59%	35%	6%	1%
	保護者	38%	58%	4%	0%
	教員	39%	54%	7%	0%
	全体	48%	46%	5%	1%
7. 本校では、キャリア教育(「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」を含む)を通して、生徒自身の自己理解や職業理解を深めている。	生徒	56%	39%	4%	1%
	保護者	33%	63%	4%	0%
	教員	39%	58%	3%	0%
	全体	45%	51%	4%	0%

A あてはまる B どちらかといえばあてはまる C どちらかといえばあてはまらない D あてはまらない

図4 令和5年度学校評価アンケート結果(一部抜粋)

(令和5年度12月に行った学校評価アンケートの回答について、生徒は在籍数571、回答数531で回答率93.0%、保護者は回答数488で回答率85.5%、教員は回答数59で回答率100.0%であった。)

(2) 今後の課題

令和7年度より本校は好間高等学校と統合し、新生「いわき総合高等学校」になる。この大きな変革期において、学校全体としては教育課程を見直し、6系列と10コースを設けて生徒の進路希望と学びの関係強化し、系列・コースの学びの深化を図る。

また、2年次の「総探」を1単位増の2単位にし、より地域と連携した探究の深まりを図るとともに、「産社」「総探」「課研」を時間割で同時展開できるよう設定し、年次間の連携と教職員全体で運営していく体制の強化を図る。

加えて、「ルーブリック自己評価」の指標の再検討を進めてきた。教員が定めていた指標について、新たに生徒の意見を取り入れ学びへの主体性の育成を図りたいと考えている。

2.1 「芸術・表現系列」(美術科)の取り組みについて

本校では美術科計7つの専門科目を、2,3年次生を対象に開設している。受講生徒数は各年次15〜20名前後であり、近年増加傾向にある。通称「系列生」と呼ばれる美術系進学を志望する生徒は、2年次「構成」「素描」、3年次「構成演習」「絵画」を主に履修しており、系統的に学びを深められる学習計画を立てて取り組んでいる。ここでは、「構成」と「構成演習」の題材を一部紹介する。

2.2 実践内容と方法

2年次「構成」においては、生徒が色彩や形体、構成美の要素、文字と組みなどを中心に授業を展開している。教科書や資料を用いながらワークシートを用いて進めていく講義形式の学習活動と、講義内容をもとに作品制作を進める演習課題、また完成作品を批評する表現・鑑賞活動に取り組んでいる。

授業を行う上で心掛けていることは、「学びが実生活とどのように結びついているのか」を意識させるため、作家作品や日常的に販売されている商品を取り上げながら授業を行うことである。

教員が設定した題材(制作テーマ)に対して、生徒が作品を完成させるまでの過程にどれだけのアイデアを考案できるのか、多角的に題材についてアプローチしようとしているのかという点においても重要視して取り組ませるようにしている。

3年次「構成演習」においては、作品制作にあたり、ワークシートを用いて構想を複数のプロセスのもとにまとめていく流れを取っている(図7)。題材の総授業時数は導入時に示し、そこで留意事項についても説明する。構想段階の序盤は、言葉・語句でイメージを書き出させて、以後、簡単な幾何形体を用いてアイデアを膨らませていく。留意していることは「出したアイデアは決して消さない」ことである。その後、アイデアを絞り込む作業に移り、数点のアイデアを配色や構図の観点から磨き上げていく。近年、タブレットの普及により、美術科の授業でもICTを活用する機会が増えてきている。作家作品の検索や、生徒相互の作品講評・評価を行うために役立てており、便利な面も多い。描画系のソフトやアプリケーションを活用することで、制作前に完成イメージを想像することも容易となった。一方で、作品を制作するための資料収集が授業の目的になってしまう生徒も少なくないため、ICTの活用については使用時期と使用方法について、今後も模索していきたい。



図5 2年次構成ワークシート(抜粋)
「パッケージデザインの配色」より



図6 2年次構成【色彩基礎課題】
上段：トーン(色調)の変化について
下段：対義語のイメージ構成

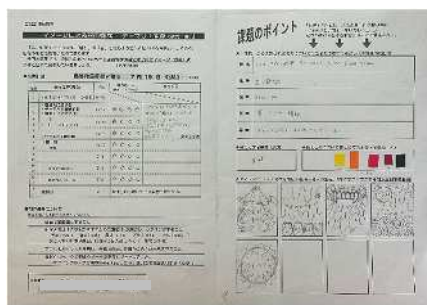


図7 3年次構成演習 作品構想のためのワークシート

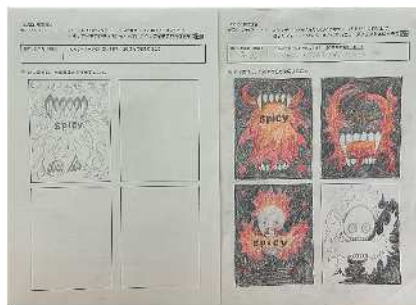


写真 作品講評の様子

2.3 外部との連携活動について

芸術・表現系列(美術科)の授業内容や美術部の作品制作・共同制作などの各種活動が、実社会とどのように結びついているのか等、生徒により実践的な経験を積ませたいと考え、様々な活動に挑戦した

(以下、活動を一部紹介)。

・2019(R 元)年 7 月

「徳ひめちやまカルタ」の原画制作

主催 内郷商工会婦人部

参加 1, 2 年次生徒

概要

いわき市内郷地区の名所や歴史をかるたとして
小学校や幼稚園に寄贈するプロジェクトに参加した。



写真 制作説明時の様子
R1. 10. 5 福島民友



・2020 (R2) 年 7 月

「いわき市議選ポスター」の制作

主催 いわき市役所選挙管理委員会事務局

参加 芸術・表現系列 3 年次生徒 12 名

概要

若者の投票率向上に向けたプロジェクトとして、
成人年齢となる高校 3 年生が制作。モチーフと
して「鳥獣人物戯画」を起用した。



写真 印刷担当と打合せの様子
R2. 8. 26 福島民報



・2021 (R3) 年 10 月

「いわき地方事務局公式 SNS アカウントで起用するキャラクター」作成

主催 福島県選挙管理委員会いわき地方事務局

参加 芸術・表現系列 3 年次生徒 14 名、美術部 1 年次生徒有志

概要

選挙を SNS 上で PR するオリジナルキャラクターデザインを考案した。



写真 関係者集合写真

・2023 (R5) 年 3 月

「フード&クロージングバンク PR イベント

『足りない×余ってる』を分かち合いで解決！」

主催 特定非営利活動法人ザ・ピープル

参加 美術部 1, 2 年次生徒 14 名

概要

イベントの運営スタッフとして、また、パーテーション
(看板) 作成を担った。



写真 参加生徒集合写真、活動の様子 上 主催者刊行物

2.4 成果と今後の課題

(1) 成果

授業や部活動において構想を複数段階に分けて取り組ませることにより、3 年間で確実に作品の完成度が向上した。また、生徒自身が制作意図や作品解説の発表が円滑に行えるようになった。外部との活動では主体性や積極性が身につくとともに、協働的な活動を通じてコミュニケーション力が向上した。

(2) 今後の課題

効果的な ICT 活用による校務の効率化を図るとともに、生徒の成果物（作品）については校内外問わず定期的に展示を行い、情報を発信することを継続していきたい。また、外部との連携活動については、受動的・単発的なものが多かったため、継続的・発展的なつながりになるように連携を強めたい。